

中学校まではできる子ども…

高校の勉強 つまずきポイント



晴れてスタートした高校生活。けれどある日、気づけば暗い顔の子ども…。中学と高校では「勉強」のあらゆる側面が変化し、それに戸惑う子どもが少なくありません。子どもがつまずく前に保護者にできることはあるのでしょうか？

取材・文／長島佳子 イラスト／小迎裕美子

【古典文法】

特に、推量の助動詞の「む」「べし」など。
(滋賀県公立高校教諭)
単純なルールに過ぎないが、暗記ものが苦手なのか？(青森県公立高校教諭)

国語 Japanese

【ベクトル】

特に空間ベクトル。中学校では全く出てこない分野なので、概念が理解できないよう。(岐阜県公立高校教諭)

数学 Mathematics

【二次関数】

その中でも特に、平方完成が第一関門。学んだときは理解しても、時間が経つと忘れてしまう。また最大と最小は、頭の中でグラフを動的にイメージできないようだ。(神奈川県公立高校教諭)

【長文読解】

中学校に比べて覚えるべき単語・熟語の量が著しく増えるため、予習をしない生徒は苦労を強いられる。(静岡県公立高校教諭)
英文を日本語に訳せても、訳した日本語を理解できる日本語力がなかったり、背景知識が不足している。(千葉県私立高校教諭)

【関係代名詞】

日本語にない文法表現なので、理解に時間がかかる。(茨城県私立高校教諭)

英語 English

【実生活とのつながりの理解不足】

地理の自然や農業・林業・水産業の分野。自然に触れる機会や自然を観察する機会が少ないため、動植物や自然現象を活字の情報として暗記している。例えば鯉と鮒の違いもわからず、海に住む魚と淡水に住む魚の区別も知らない。枝豆と大豆が結びつかない。経済の分野では、自分で買い物をしたことがないので、魚や野菜や肉、米の値段を知らない。(静岡県公立高校教諭)

社会 Social Studies

【カタカナ用語】

世界史Bでは最初に学習するオリエントやヨーロッパで、カタカナでの用語の多さに戸惑う生徒が少なくない。一方で、古代中国になると、世界史特有の漢字に戸惑っている。(宮城県私立高校教諭)

つまずきポイントを先生にアンケート!

【モル】

概念が理解しにくく、特に計算で数値に単位が付くと数学よりも格段に扱いにくいようだ。(広島県公立高校教諭)

理科 Science

【文字式】

数学で理解しているはずの文字式が物理で出てくるとわからなくなるようだ。 $v=v_0+at$ という式が $y=ax+b$ と同じ構造をしていることが違う文字を使っただけで理解できなくなる。(北海道公立高校教諭)



保護者の皆さんも心当たりがあるのでは…

高校の勉強は、 中学とは学びの意味が違う!?

自主的な勉強が求められてくる

高校の授業に、今までなかった戸惑いを感じる子どもたち

「高校は、同じような成績の生徒が集まる場なので、中学のときのような成績は取れないかもしれない」。保護者もこれくらいの子想はつくことでしよう。しかし、勉強そのものに子どもが戸惑っているとしたらどうでしょう？

前ページで高校の先生方にお答えいただいたアンケートや、ページの欄外で子どもたち自身が感じた「高校での勉強のつまずきポイント」をご紹介します。振り返れば皆さん自身も覚えがあることかもしれません。保護者の時代に比べ、大学の進学率がずっと高くなり、高校もほとんどの生徒が通う時代ですが、昔も今も、中学との明らかな違いは義務教育ではないことです。自ら進んで勉強を継続する道歩んでいるのですから、授業の中身が深まってくるのも当然のことです。しかし、子ども自身も保護者も、そのことを自覚せずに進んでいることで、急激な変化に対する戸惑いにつながっていくようです。

子どもに起こる変化を保護者も予め覚悟しておきたい

高校の授業は、勉強の内容が難しくなるとともに、授業の形態や進み方も中学とは異なります。左ページにまとめたように、学習全般でつまずくポイントがいくつもあります。

また、子どもたちに起こる変化は、勉強だけではありません。多くの場合、高校は中学よりも自宅から遠く、通学に時間がかかるようになります。慣れ親しんだ友達と離れ、友人関係も「からリセットして築き上げなければなりません。また、部活動や委員会などの課外活動に割く時間が、中学の頃より増えたり、体育祭や文化祭など行事も規模が大きくなり、運営も生徒主体のケースが多くなります。

楽しみも含め、学校生活が大きく変化する中、勉強そのものも大変になっていくことは、子どもたちにとって少なからずストレスとなっていきます。子どもたちにこうした過渡期が訪れることを、保護者は見守る立場として知っておいてあげましょう。

先生はこう見えている!? つまずきやすい子・伸びる子



つまずく子がいる一方で、高校3年間で急成長する子どももいます。先生たちに各々の生徒のタイプについて尋ねたところ、つまずきやすい生徒では「応用力に欠ける」「塾頼みだった生徒」、伸びる生徒では「好奇心が旺盛」「切り替えが上手」「主体性がある」などの回答が多く見受けられました。

興味深かったのが、つまずきやすい生徒として「何でも丸暗記しようとする子」と「暗記から逃げる子」の両極を挙げていたり、「言われたことだけする子」や「真面目すぎる子」がつまずきやすいと回答する一方で、「人の話を素直に聞く子」や「コツコツできる子」が伸びやすいと答えていたり、矛盾しそうな回答も目立つたことです。同じ「暗記」や「人の話を聞く」という行為でも、自分なりの考えがあるか、姿勢や取り組み方が大きな違いを生むということのようです。保護者としてどうしたら、子どもの個性は尊重しつつ、勉強に対する姿勢を、伸びる方向にいざなえるでしょうか。

先輩たちの 実感ナマ声 高校の勉強 衝撃ポイント

英語の発音・アクセントを普段から意識すべきだった。(高校3年・女子)

古典の予習をするとき、辞書を使っても意味がさっぱりわからなかった。(高校3年・女子)

化学のモルは意味不明だった。元素記号一つひとつをはじめにちゃんと覚えないと、化学式自体がわからなくなる。(高校3年・女子)

高校の勉強で大変なのは物理(‘・ω・’) 電気とか、なにが起きてるかわからない。(高校3年・女子)

数学全般でつまずいた。1Aは二次関数出てきた瞬間死んだ。2Bは数列のΣが出てきた時、わかんなくて涙が出た。(高校3年・男子)

とにかく高校3年間過ぎるの早いから、何でも早めに始めた方がいい。(高校3年・男子)

英単語力と国語の読解力は1年からコツコツ、小説とか読んでみるのがいい気がする。あと、読解力をつけるために2年生から簡単な文章でいいので、長文問題に取り組むのがいいと思う。(高校3年・男子)

Point!

高校の先生に聞いた 学習全般のつまずきポイント

冒頭では先生方に聞いた、科目別の超具体的なつまずきポイントを2紹介しました。それだけではなく、高校での学習全般のつまずきやすいポイントを見てみましょう。

ポイント1 科目の細分化

中学では国数英社理の5教科だった科目が、数I、数A、物理、化学など細分化され、かつひとつが深掘りされていくことに、まず子どもたちは面食らってしまうようです。

ポイント2 ノートをとれない

プリント学習を取り入れている中学が多いため、自らノートを取る習慣がついていないと、多数の先生が回答。先生の話を理解しながらノートを取ることにハードルを感じてしまうのかもしれません。

ポイント3 授業のスピード

学ぶ量が格段に増え、講義型の高校の授業では、生徒が理解しているか否かに関わらず進行していきます。中学とは比較にならないスピードに、自分が何がわからないのかもわからず戸惑う生徒もいます。

ポイント4 家庭学習がわからない

塾で言われた通りに勉強してきた子どもも多いため、自分で勉強する方法を知らないと多くの先生が感じています。受身ではなく自主的に予習・復習する術を早急に身につけることが求められます。

ポイント5 予習・復習の重要性

中学までは授業時間だけで理解できた生徒でも、高校の授業のスピードと量では、予習・復習なしでは授業についていくことも、習った知識を記憶していくことも難しくなるようです。

ポイント6 時間がない

中学よりも通学時間が伸びる生徒がほとんどで、また部活や学内行事なども盛んになることで、家で勉強に費やせる時間が減ります。時間を効率的に使う大切さに気づけるかもポイントになります。

Advice!

伸びる勉強の仕方は 生徒それぞれ。 自分に合った方法を見つけるための 試行錯誤が できるかどうか

高校に入ってから勉強につまずくのをよく見かけます。シヨックを受けるのも必要なことでしょう。そのことで、「中学と同じ勉強の仕方ではダメなんだ」と気づいて工夫することにつながるからです。子どもたちは授業の現場にいますから、ある程度時間が過ぎるところこうした事態を受け入れていきますが、子どもたちの成績が落ちたり、宿題の量が急が増えたり、あわててしまう保護者の方もいらっしゃると思います。

高校は子どもたちが社会に出るまでの通過点に過ぎません。生徒たちにより高いレベルの目標を持つて次のステップに進んでもらうためには、これから学ぶことの広さや深さ、勉強する目的を理解し、どう学んでいくべきかを、自分の力で見つけていかなければならないのです。

試験の後に、生徒たちにどんな勉強の仕方をしたか振り返りシートを書かせると、良い成績を取った生徒同士が、正反対の方法を答えることがあります。つまり、勉強の仕方はひとつではなく、自分に合った方法を見つけた生徒が、つまずきから克服できるのです。

自分なりの方法は簡単には見つかりません。最初の方法で失敗したら、課題をじっくり振り返り改善点を考えて、他の勉強法を試してみるのです。一度成績が下がっても、自分に合った勉強方法がわかればV字型に回復していきます。ただし下がり過ぎるとやる気を失うことがあるので、1年生のときの下げ幅をなるべく小さくすることが大切です。そのためにも、まずは学校の指導通り学習して自分の課題を見つけ、試行錯誤を早めにスタートする努力と工夫が必要だと思えます。



静岡県立浜松北高校
大村勝久 先生

静岡県の総合学科高校、中高一貫、進学校などさまざまなタイプの学校で教鞭を執り進路指導を行う。進路指導に関する著書、雑誌等での執筆も多数。

化学と数学を復習せず放置したら、テスト期間だけの勉強じゃ全然理解できなかった!(高校3年・女子)

1年の古文でつまずいたけれど、2年になって文全部を品詞分解しつつ訳すようになったらいつのまにか進歩していた。(高校3年・女子)

英語は学校のテストで結構できるって誤解して、3年になってから単語力のなさに落ち込みました…英単語覚えるのは大変でした(*_*)(高校3年・女子)

英語について、高校1・2年のときにもっと音読をしていればよかった。今になって音読のすばらしさを感じます。(高校3年・男子)

日本史Bの暗記事項は細かくなるので歴史に興味がないと覚えるのが辛い。選択科目でみんなが高得点を取るの、点差が特に開きやすい!(高校3年・男子)

世界史は毎授業ごともしっかり復習しないと大変ことになる。(高校3年・男子)

その日の授業をすべて確実に理解できないことが多いから、そのままスルズルわからないことが増えていく状況。自分に負けないで理解するまで勉強し続けることが一番大変です。(高校2年・女子)

数学の確率でつまずいた! 公式の使い分けができなかった! 苦手すぎて確率はすべてわかりません!(高校3年・女子)

保護者は「転ばぬ先の魔法の杖」を渡せる？

やる気のヒントを蒔く方法



魔法の杖2

中学との違いの情報を それとなく伝えてみる

上に兄や姉がいる生徒は、中学と高校の違いについての情報があるので事前に心構えができますが、1人目の子どもの場合、いきなりの違いに面食らってしまいがちです。前ページまでにご紹介したように、高校の勉強では勉強の中身も、授業の進み方も中学とは異なることがさまざまあります。高校ではどんなことが変わるのか、この本を参考にしながら、それとなく子どもに伝えてあげることが保護者にもできそうです。ページ下の先輩高校生や大学生のつぶやきコメントなども参考にすると、子ども自身がどうするべきかの参考にもなると思います。

どうやら高校の勉強は、学ぶ子ども自身が解決方法を見つけることしかなさそうです。保護者には立ち入ることができないかに思われる勉強という聖域に対して、子どもが大きくつまづく前に、杖を渡すように、保護者がしてあげられることはないのでしょうか？



魔法の杖1

子どもと一緒に 決してあわてない！

中学のときより成績が落ちたり、学校の授業についていけなくなったとき、一番痛手を感じているのは子ども自身です。保護者は心配はしても、子ども以上にあわてるのは禁物。保護者があわてれば、子どもは自分が思っている以上に深刻な事態なのかと感じてしまいます。ましてや、学校に乗り込むなどの事態はくれぐれもないように…。前ページで大村先生が語っているように、高校に入った当初につまづきを感じるの珍しいことなのです。保護者にできることは、予想の範囲内と大きく構え、どうしても心配なときは保護者面談の際に先生に相談してみるのもよいでしょう。



魔法の杖4

最終目標は自律&自立 見守っていることを伝える

学校でも家庭でも、教育の最終目標は、子どもが「自律」した状態で「自立」できるように育てあげることです。高校での勉強方法を子ども自身が模索しながら見つけなければならないのはその一歩にすぎません。速度に個人差はあっても、子どもたちは高校3年間で確実に成長していきます。そのときに保護者は、一歩引いて、少しでも成長が見られたときに褒めてあげることです。特に子どもが落ち込んだときに褒め言葉をかけられれば、子どもは見守られているという信頼感を持つことができます。先生とは違う目線で子どもを見守ることが保護者にできる一番の杖なのです。



魔法の杖3

体調、食事、睡眠管理など 生活のリズムを整える

新しい環境や難しい勉強に立ち向かって行くには、まず心と体の健康が必要です。保護者の最も大切な役割であり、さしのべられる手立ては、子どもが食事や睡眠をきちんと取れているか、生活のリズムを整えて体調の管理をしてあげることです。これは学校や先生にはできないことです。思春期から青春期にさしかかるこの時期は、人間関係や反抗心など、学業以外の要因で勉強に身が入らなくなるケースもあります。それらを解決していくのも子ども自身ですが、基本的な生活のベースは家庭にあるという安心感を持たせてあげましょう。

数学や理社はその日に習ったことを、その日の内に復習しないと、消化不良で、テスト前にあわててやっても全然できない。(高校3年・女子)

つまづいたのは、高2の化学と数学(文系にとっては理系科目を勉強するのはとてもつらいもの。1年で終わらせた科目を受験前に覚える量が多すぎてとても苦労しました。(高校3年・女子)

高校の授業はスピードがはやく、内容も濃いから授業内で完璧に理解してついていくのはなかなか難しいと思う。だから予習復習は本当に大切。(高校3年・男子)

その日のことはその日のうちにやっておくべきだった。延ばしたりしてとどんどん溜まってやる気がなくなって、テスト後に後悔した。(高校3年・女子)

苦手を見つけるチャンスとなる学校のテストは大切に！(高校3年・女子)

小学校から高校まで、勉強内容は変わっても基本は反復して定着させられるかどうか。そういうものは大体宿題で出してくれたから、もう少しめんどくさくやらせておけばよかった。(大学2年・女子)

授業ごとの復習(演習)を重ねて苦手をつぶす。理系科目は予習の必要性を感じない。(高校3年・女子)



大学受験に必要な力を子ども自身でつけられる!



受験サプリー

<http://jyukensapuri.jp/>

次のステップである大学進学まで、あるようでないのが高校での時間。志望校に合格するまでに必要なことが揃っている、リクルートのWEBサービスの存在を、子どもに教えてあげることも保護者が渡せるひとつの杖です!

目標を立てて、それに向かって学習を進め、振り返りができる!

子どもたちの次のステップは大学受験。志望校に合格するまでには、目標を明確にして、それに向かって計画的に学習を進め、自分の実力を振り返ることで。まだ成長できると思えば目標を上げたり、努力しても難しそうときは目標を修正することもときには必要です。そして新たな目標に向かって、足りない部分を補う

べく学習を続けるという、サイクルを繰り返していきます。それに必要なことがすべて揃っていて、自分で学習する力が身につくのが、PC・スマホの両方で使えるリクルートの「受験サプリー」です。入試問題がどんなものか、今から知っておくと心強いので、是非お子さんに教えてあげてください。

目標

●志望校検索



全国の大学・短大が、学部系統・所在地・入試日程・受験科目などから検索して探すことができます。大学や学部・学科ごとに、偏差値をわかりやすく範囲で表示しています。

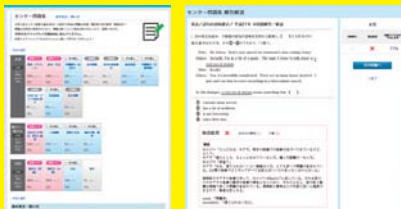
●受験プラン



志望校リストを作成して、大学の入試に必要な手続きの日程チェックや、入試プランを立てることができます。同じ学校を志望している人の、併願校を見ることもできます。

振り返り

●センター問題集



最新4年分・14科目のセンター試験の過去問が無料で利用でき、自分の解答結果だけでなく受験サプリー会員の平均正答率が見られます。現役東大生の解説もついています。

●大学入試過去問

●センター模試

全国100大学の入試過去問を無料でダウンロードできたり、Web上でセンター試験を体験できるセンター模試も開催。すぐに採点結果がわかるので弱点克服に役立ちます。

*大学入試過去問は4月中旬より順次掲載開始予定、センター模試は本年度版は夏ごろ公開予定。

ほかにも、伝説の受験マンガ『ドラゴン桜』の1巻とセンター試験対策編がWEBで読めたり、有名人からの応援メッセージを読めるなど、楽しく便利に学んで受験に備えられる機能が満載です!

このサイクルの繰り返いで 受験までに実力アップ!

学習

●オンライン予備校



カリスマ講師陣の基礎力アップ講座から受験対策講座まで、PC・スマホで、いつでも、どこでも、自分のペースで何度でも受講できます。月額なんと980円で使い放題! PCで途中まで見たところから続きをスマホで再生して見られるレジューム機能もあります。

*月額980円で使い放題となるのは「基礎講座」の講義動画です。別途費用がかかるオプションなどがあります。価格は2013年4月~2014年2月まで適用されます。